

ようこそ、笑顔咲く長崎県へ

Nagasaki Discovery Magazine ni-ko-ri

長崎県

にこり
ながさき



お殿様が愛したまち

江迎町吉井町

No.
23

GIANT
CANTILEVER
CRANE

ジャイアント・
カンチレバークレーン



世界文化遺産候補
明治日本の
産業革命遺産
九州・山口と関連地域

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が世界文化遺産候補としてユネスコに推薦されました。福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、山口県、岩手県、静岡県の8県にわたる23の資産で構成され、本県には、端島炭坑(軍艦島)を含め8つの資産があります。これらの資産は幕末から明治期にかけて、日本が、造船、石炭、製鉄・鉄鋼などの重工業分野において、西洋地域以外で最初に急速な産業化を遂げた一連の過程を示す産業遺産群です。長崎県は「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の世界遺産登録を推進しています。 世界遺産登録推進課 TEL.095-894-3171

資産所在地／長崎県 長崎市

小菅修船場跡 長崎造船所 第三船渠 長崎造船所 旧木型場 長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン
長崎造船所 占勝閣 高島炭坑 端島炭坑 旧グラバー住宅

写真／長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン

にこり

表紙のはなし えむがえ蘭玉
福を呼ぶ縁起物とされる「蘭玉」。
毎年春に開催される「蘭玉まつり」
の期間中は、町全体が色とり
どりの蘭玉に彩られます。

平成26年6月発行
編集・発行／長崎県広報課 〒850-8570 長崎市江戸町2-13
TEL.095-895-2023 メール:ni-ko-ri@pref.nagasaki.lg.jp
デザイン／(有)イースワークス 印刷／川口印刷株式会社
<http://www.pref.nagasaki.jp/bunrei/kenseijoho/koho/johoshi/>

定期購読(無料)
の申込は
こちらから



長崎県



ふるさと再発見

船越町
江迎町
EMUKAE
Sakurai City

お殿様が愛したまち

美

しい蒔絵が施された大きな洗面具。これは平戸藩第十代藩主、松浦熙公が実際に使用していたものである。眩いばかりの黄金色は二百年前のものとは思われず、一流の職人の技に思わず息を呑む。

佐世保市江迎町には、かつて平戸藩主専用の宿舎として使用された本陣屋敷跡がある。この本陣は江戸の参勤交代と長崎港の警備のための往還の御旅舎として整備されたもので、平戸藩主は代々ここで休息をとった。現在の建物は、熙公の意向により天保三（一八三三）年に改装されたもの。御成門や藩主がくつろいだ御成の間、庭園や家具、日用品に至るまで当時のままに残されている本陣跡は県下でもここだけだ。

京都から庭師を呼び寄せ造らせた庭園には水琴窟が置かれている。水をかける

と、水滴の反響により琴の音に似た清らかな音色を奏でた。当時、京都で流行った最新のアイテムを庭に配して楽しんだ熙公は風流を愛する一方で、好奇心に富んだお殿様であったのであろう。

江戸時代、平戸藩は江迎を通り佐世保を経て東彼杵までの「平戸街道」を通って参勤交代を行っていた。藩主とわずかな側近を除いては、皆近くの寺や船宿に宿泊したという。参勤交代の行列は約百五十名。その数を見てもこの付近一帯が賑わい、村の中心地だったことがうかがえる。当時の面影と現代が交差する江迎町を歩く。

江迎町

江迎本陣

佐世保市江迎町長坂209

TEL.0956-65-2209

（瀬龍酒造）

江迎本陣

検索

洗面具

松浦熙公が実際に使用していた洗面具は、いま見ても洗練されたデザインで、目を奪われる。

このほか江迎本陣には、お殿様ゆかりの品々が展示されている。

江 迎は「繭玉」のまちである。毎年春には旧平戸街道であった道沿いに色鮮やかな繭玉が飾られ、多くの観光客で賑わう。

繭玉は本来、繭が豊かにできることを願って小正月に作っていた飾り物であるが、この地域では十二年ほど前から「まちおこし」の一環として繭玉づくりが行われるようになった。

その仕掛け人が岩井久美子さんだ。岩井さんが営む「生活空間あみー」を訪ねると、カラフルな繭玉や古布を使った押絵が華やかに飾られていた。小さい頃から手芸が趣味だった岩井さんは、「少しでも商店街が明るくなれば！」という思いで繭玉づくりを呼びかけたという。最初は乗り気ではなかった商店街の女性たちも徐々に繭玉づくりにハマり、今年には一度の祭りのために一年中繭玉づくりを行うまでになった。

繭玉は直径二センチ程の小さなサイズから直径二十センチの発砲スチロール製の玉に布を差し込んで作る。細かい作業も色合わせの楽しさも女性向き。「繭玉づくりは誰にでもできるのが魅力です。しかも余った布で充分なんです。角のない丸い繭玉には招福の意味も込められています。日本の伝統を引き継ぐ意味でも続けていきたいですね」と岩井さん。

商店街を歩いていると、表に華やかに繭玉を飾っているお店に出会った。「匠工房」では繭玉の販売だけでなく、体験

も行っている。中に入ると、繭玉づくりが行われていた。

繭玉を飾る枝は、祭りの際には柳を使うそうだが、お土産用には竹を使用するという。山から取ってきた竹を一カ月ほど乾燥させ、その後ペンキで四回色を重ねる。それに手作りの繭玉を付けていくのだ。

店内では手軽に楽しめるストラップなども販売している。自分用に根付を二つ購入し、さっそくキーホルダーに付けてみた。カラフルな丸い玉は、見ているだけで気持ちを上向きにしてくれる。まさに福を招いてくれそうだ。



まちを元気にしたい。
その想いが
色鮮やかに福を招く。



写真右／繭玉の中には複雑なデザインのもの。左上／発起人の岩井久美子さん。左下／繭玉づくりは細かい作業の連続だ。

生活空間あみー
佐世保市江迎町長坂164-18
TEL.0956-65-2551
匠工房
佐世保市江迎町長坂188-4
TEL.0956-66-3434



ストロベリースタイル
佐世保市江迎町長坂138-4
TEL.0956-73-1115

ストロベリースタイル 検索



よもぎ会
佐世保市江迎町長坂105
TEL.0956-65-2420

江迎 よもぎ会 検索

現在開発中の黒大豆を使った豆腐。
この日の出来も上々!

「ストロベリースタイル」は若いご夫婦で営むオープン六年目のお店。商品名やケーキの説明書き一つにも心くばりが感じられる。甘納豆の包装紙の裏を見ると思わずニッコリしてしまう。原材料名の最後には「愛情」の文字がさりげなく添えられている。

江迎のまちで一際目を惹く店がある。洗練された店内には、アイデアいっぱい、のケーキとともに黒大豆を使った商品も並ぶ。自家栽培の黒大豆が入った「黒豆大福」は生クリームがたっぷりながら、ちょうどいい甘さで一個をペロリ。試食用にと置いてあった甘納豆「黒つ娘ブランド」もついつい手が伸びるクセになる逸品だ。

最初は黒大豆だけで作っていたそうだが、皆で試行錯誤を繰り返し、大豆をブレンドすることで納得の味を作り上げたという。よもぎ会のモットーは「笑顔、笑顔」。にこやかに立ち働く姿を見ていると、商品開発もきつと楽しく行われたのだからとこちらまで嬉しくなった。



発足三十年を迎える「よもぎ会」の会員は十三名。会長を務める朝永ミヨ子さんは御年八十三歳。「ここには黒大豆づくりの名人、野菜づくりの名人、巻き寿司の名人、卵焼きの名人...と、それぞれの名人がいるんですよ」と元氣いっぱいに笑う。

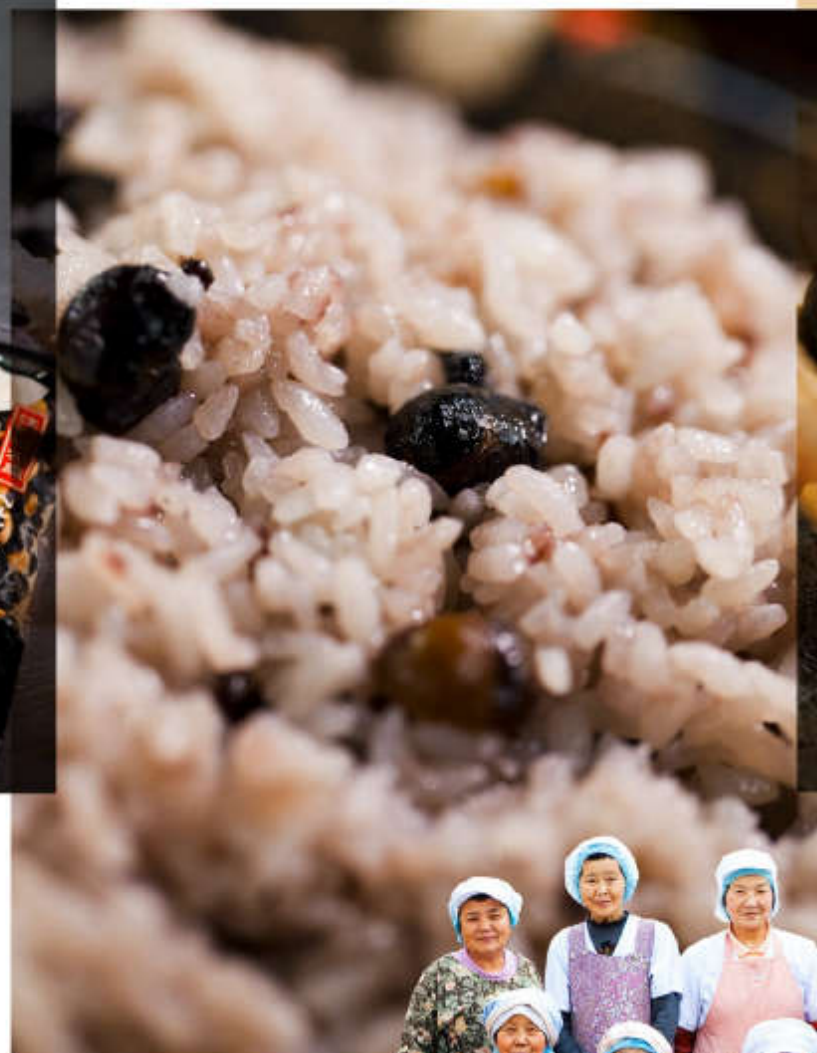
看板商品の味噌はコクがあって濃厚。発足三十年を迎える「よもぎ会」の会員は十三名。会長を務める朝永ミヨ子さんは御年八十三歳。「ここには黒大豆づくりの名人、野菜づくりの名人、巻き寿司の名人、卵焼きの名人...と、それぞれの名人がいるんですよ」と元氣いっぱいに笑う。

江迎の特産品といえば「黒大豆」である。正月くらいしか口にすることのない贅沢な黒大豆をこのまちではよく目にする。黒大豆を使った加工品を作っている所があると聞き、商店街からもほど近い農産加工所「よもぎ会」へ向かった。

黒大豆の栽培は今から十五年ほど前、江迎の特産品を作ろうと始まった。江迎ではもともと大豆づくりが行われていたため、豆づくりのノウハウはあったという。栽培は大豆よりも難しいというが、今では二十軒ほどの農家が黒大豆を栽培。毎年大きな実をつけている。



つやつやとした黒大豆。
これを原料に「よもぎ会」では
数々の特産品を
生み出している。



美味しい黒大豆、
食べにこんね〜。



まちの自慢は
やさしい味わいの
特産品

黒大豆



壽福寺の美しい庭。本陣屋敷の庭を造り終え、京都に帰ろうとしていた職人を住職が呼び止めて造らせたという。



階段を上ると現れる
壽福寺の白い山門はとても印象的だ。



壽福寺の西の門から江迎のまちを見下ろす。
階段下には旧平戸街道が通っている。

歩くほどに出会う まちの秘話

ながさき
にり

毎年 年八月二十三日、二十四日に行われる「千灯籠まつり」は江迎の夏の風物詩。約二十五メートルの高さのタワーに一齐に灯される灯籠は大きな見どころとなっている。「壽福寺」にこの祭りの発祥があると聞き、向かった。

寺には室町時代の頃、藩主自らが影ったという水掛地蔵尊が祀られており、これにはある言い伝えが残っている。

その頃、地蔵尊が安置されていた寺院は衰退し、地蔵尊はいつしか子どもたちの遊び道具となっていた。ある夏のこと、川で地蔵尊を浮かべて遊んでいた子どもらを見つけた村役人は、それを叱り、施設して地蔵尊を持ち出せないようにした。しかし、その夜、役人の夢に地蔵尊が現れ、「せつかく子どもと遊んでいたのになぜ鍵をかけたのか!」と叱られてしまう。それから時を経て、藩主黒公は地蔵尊に不幸があつてはならぬと、

寛政十一（一七九九）年に壽福寺に移して供養した。それからというもの、毎年緑日に御開帳し、町内をまわって水を掛けて供養するようになったという。これが地蔵盆千灯籠まつりとして現在に受け継がれた。

子どもたちが年に一度、お地蔵様に水を掛けながらまちを練り歩く光景は、想像するだけで楽しい。子ども好きで知られるお地蔵様は江迎の人々に親しまれ、子どもが小さいうちは必ずお参りにいくのだという。

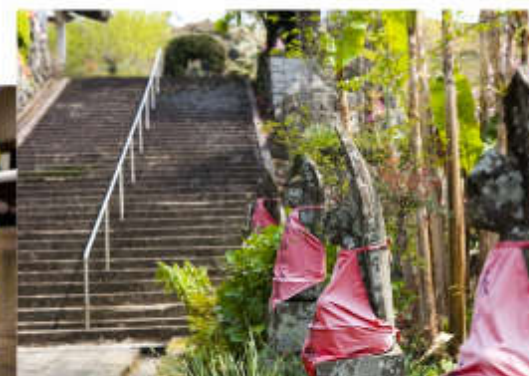
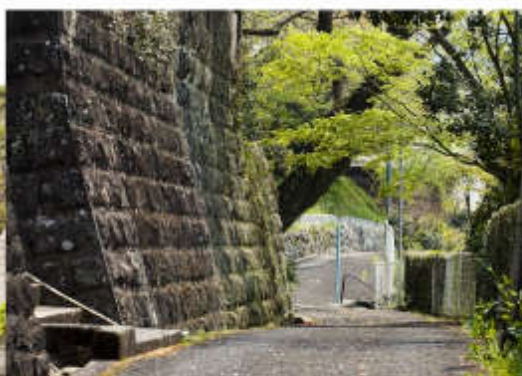
千灯籠まつりのメイン会場となる江迎中央公園にはその昔庄屋があつた。この庄屋に泊まったのが、若き日の吉田松陰だ。日記によれば、西遊して平戸に向かう際、松陰はくたくたに疲れた体で江迎にたどり着いたという。公園の片隅にはその時、松陰がしばし腰をおろして休んだ石が置かれてあつた。庄屋の跡地には近年まで小学校があつたというから、松陰の腰かけた石に多くの子どもたちも座ったことだろう。

公園には樹齢四百年を越えるムクの木がまるで手を広げるように立っていた。そのまわりを女の子が「私、秘密基地を十個持つてるの!」と駆け抜けていく。このまちの子どもたちは実に愛らしい。

栄久山 壽福寺
佐世保市江迎町長坂276
TEL.0956-65-2040



千灯籠まつりのメイン会場となる
江迎中央公園



平戸八景

潜龍水

HIRADO-HAKKEI

人々にとつて
その滝は
神であつた。

佐

世保市には「平戸八景」と呼ばれる名勝がある。江戸時代、全国各地で選定された八景のひとつ。現在、全国には約九百六十ヶ所の八景があるが、八景すべてが一つの行政区域にあり、しかも江戸時代に選定されたものがすべて残っているのは大変珍しい。

平戸八景のひとつ「潜龍水」を訪ねた。滝の前に立つと、轟音と迫力に圧倒されるものの、全身に降り注ぐ飛沫が心地よい。

平戸八景を選定したのは平戸藩主松浦熙公。本陣屋敷の庭に水琴窟を取り入れた、新しいものが大好きなお殿様だ。ガイドの清水保穂さんは「熙公はこの地にはこんなにも面白いものがある!」ということを経戸に広めたかったのでしょうね」と話す。熙公はこの滝の美しさに感銘を受け、「潜龍ノ滝」と名付けた。その名の通り、

滝壺には龍が潜んでいそうと、幻想的な雰囲気漂う。熙公はこの滝を神として祀った。滝の手前には鳥居が建立されており、熙公の直筆といわれる「龍門」と刻まれた石額が掲げられている。当時、この鳥居から滝壺までは神域とされ、土足で立ち入ることを禁じられていたという。「平戸八景は平戸街道沿いにあるものもあれば、脇街道と呼ばれる場所にあるものもあります。熙公は珍しい場所の噂を聞きつけては訪れたのかもしれない」と清水さん。平戸八景は、多くの候補地の中から熙公が「ここはどうか」「いや、あっちの方が珍しいのでは」と悩みに悩みぬいて決めたのではないか。お殿様が八景を厳選している様子を想像すると、ちよつと面白い。その苦勞の甲斐あつて八景は今なお人々に愛されている。



SASEBO時旅ネットワーク
ガイド 清水保穂さん

SASEBO時旅ネットワーク

佐世保市三浦町21-1 (JTB佐世保駅構内)
TEL 0956-23-3369 (佐世保観光コンベンション協会)

SASEBO時旅 検索



眼鏡石

眼鏡石

佐世保市 瀬戸崎町

高さ約10メートル、幅約20メートルの石橋状の奇岩。
砂岩の一枚岩に巨大な二つの穴が並んでおり、
眼鏡に似ていることから名付けられた。



大悲観

大悲観

佐世保市 小佐々町小坂

大悲観公園にある高さ約20メートルの砂岩の浸食残丘。
岩の向こうの景色を夢に見た熙公がそれを確かめようと岩に登ろうとしたものの、
家臣たちに止められ願いが叶わなかったことから、
代わりに岩に「大悲観」の文字を彫らせたというエピソードが残っている。



高巖

高巖

佐世保市 江迎町小川内

江迎川下流に位置する高さ約30メートルの砂岩岸壁。
古くより知られた断崖で、
以前はこの真下を平戸往還が通っていた。



福石山

福石山

佐世保市 福石町、若葉町

間口約60メートル、高さ約4メートル、奥行き約5メートルの福石山の羅漢窟。
三日月型の独特の形状の洞窟には弘法大師が
安置したといわれる五百羅漢があったが、
長い年月の間に散逸し、現在では142体の羅漢像が安置されている。

お殿様が愛した風景

平戸領地方八奇勝図

HIRADO-HAKKEI

平戸領地方八奇勝図(松浦史料博物館蔵)

平戸八景

藩内の名勝や奇岩を選定した熙公は、京都の画家に依頼して、
嘉永元(1848)年、「平戸領地方八奇勝図」を出版。
これをきっかけに平戸八景は世の中に広く知れ渡ることとなる。
「平戸領地方八奇勝図」には、先の「潜龍水」をはじめ、
「福石山」「高巖」「大悲観」「眼鏡石」「岩屋宮」「潮之目」「石橋」が紹介されている。
当時描かれた絵を見ると、少々誇張されているものもあるが、
お殿様が見た景色は今とほぼ同じだったことが分かる。



石橋

石橋

佐世保市 吉井町直谷

全長約30メートル、幅約5メートルの2本の天然石橋。
「平戸領地方八奇勝図」では橋の上を人が歩いているが、
現在は橋の上を歩くことはできない。P13-14参照。



潜龍水

潜龍水

佐世保市 江迎町、吉井町

江迎川上流の高さ約20メートルの滝。
滝壺の深さは約6メートルあり、男滝と女滝の2つに分かれている。
現在では「潜竜ヶ滝」と呼ぶ。P9-10参照。



潮之目

潮之目

佐世保市 早岐2丁目3丁目、有福町

早岐瀬戸で最も狭い幅約10メートルの瀬戸。
潮の干満によって激流を作ることから
「速来」=「はいき」と地名の由来ともなった。

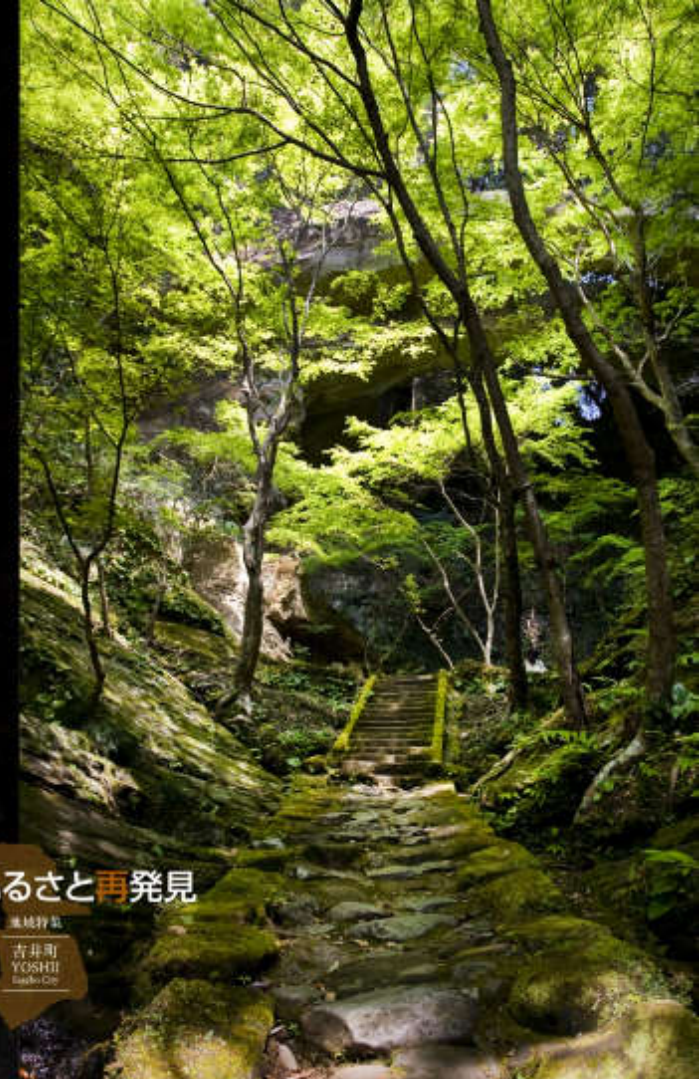


岩屋宮

岩屋宮

佐世保市 高梨町

神殿が天然の砂岩製洞窟になっている。
御座所の真下は深い井戸になっており、清水が境内の水神社に湧いている。
その霊水を求めて県外からも参拝者が訪れる。



ふるさと再発見

吉井町
YOSHII
Hakko City



江 迎町の隣にある吉井町の御橋観音寺。こちらの境内には平戸八景のひとつ「石橋」がある。

秋には紅葉の名所として知られる御橋観音寺だが、この日は吹き出したばかりの早緑が眩しいほどで、爽やかな風が頬をなでる。鮮やかな木立の中を進むと、上空に石橋が姿を現した。二条の天然の石橋は自然のものとは思われず、その景觀は見事の一言に尽きる。

石橋の下はドーム状で、その形状はローマのコロッセオのよう。潜龍水が「動」だとすれば、ここは「静」。そのなんともいえない神秘的な雰囲気は、日夜ここで神様たちが集会でもしているのではないかと思えるほどだ。

ガイドの清水さんは「ここは昔、水がとっても豊富で、山伏の修行場だったともいわれています。この場所は昔、滝壺だったのかもしれない。そんな風に思いをめぐらせて楽しむのも八景の魅力です」と話す。

鮮やかな緑色が石橋に反射している。自然とは、素朴な信仰心とは、こんなに美しいものと改めて思う。石橋の真下で「よもぎ会」の朝永さんのことを思い出した。会の名前の由来を尋ねると、朝永さんはこう言って笑った。「よもぎは踏まれても踏まれても立ちますでしよう」。自然も人間も、年月を重ねることで磨かれる美しさや強さがあるのだから。平戸八景は時を経てなお私たちに語りかけてくる。

吉井町 石橋

HIRADO-HAKKEI

圧倒的な
自然美に
ただ立ち尽くす。



華やかな香り、
そして濃厚な甘さと
ほどよい酸味

吉井いちご



長崎を代表するいちごといえば「長崎さちのか」。
糖度の高さとビタミンC含有量の豊富さが特徴で、
美しい形と濃い色、絶妙な甘味と酸味のバランスで人気を博している品種だ。
この「長崎さちのか」を超えるいちごとして、
現在長崎県で本格的な導入が始まっているのが「長崎ゆめのか」だ。
果実が大きく糖度が高いのに酸味があり、さっぱりとした食味で注目を集めている。
温暖な気候の長崎県はいちこの栽培に適している。
県内のあちこちで栽培されており、その出荷量は全国四位。
県北部の北松浦半島のほぼ中央に位置する、
佐世保市吉井町でも昔から盛んにいちこの栽培が行われてきた。
今回は、親子三代にわたって栽培に取り組む田中さん一家を訪ねる。



愛情いっぱい いちごを 家族で作る。



の 豊かな風景が広がる場所。そこにいくつものハウスが並ぶ。その中の一つに田中哲也さんが案内してくれた。ハウスの中には見たことのない機械が設置されている。「これは炭酸ガスを発生させる機械です。昨年から導入しているのですが、多くの炭酸ガスを発生させることで成長が早くなり、収穫の回転率が上がるんですよ」。そこには旺盛なチャレンジ精神が見てとれた。

いちごは管理が非常に難しい果物だ。哲也さんの父、一郎さんに尋ねると、「これで管理しているんです」とポケットからスマートフォンを取り出した。なんと温度や湿度、炭酸ガスの濃度までリアルタイムで分かるという。「息子が設定してくれますから」と一郎さんは笑う。

哲也さんがいちごの栽培を志したのは十八歳の頃。当時、「吉井いちご」として名を馳せたいいちごを一生懸命に作っていたのが、一緒に暮らしていた祖父だった。高校卒業後、一年間大村の地でいちごの勉強をして戻った哲也さんは、祖父と一緒に栽培を始めた。「その矢先だったんです、祖父が事故で亡くなったのは...。それから父と二人でいちごの栽培を一から始めました」。

一郎さんと妻の美津子さんは、それまで十五年ほどメロンとキュウリの栽培に取り組んでいた。「同じ家に暮らしながら、父とは違う作物を作ることでいつも競争していました。親父が亡くなった時、自分の得意なメロンとキュウリで食べていくことも考えましたが、やはりいちごを作り続けることが親父の遺志だろうと思い、息子と一緒にいちごを作ることを決心したんです」と一郎さん。

いちごは収穫期間が約半年もあり、その時期は気が抜けない。一郎さんは「今年は豊作で、三月のピーク時は毎日夜中まで仕事に追われました。いちごに水や肥料を与えないといけませんし、収穫しなから翌年の苗も作らなければなりません。家族総出ですよ」と話す。

現在、田中家は八人家族。一郎さんと美津子さん、その息子の哲也さんと千恵子さん夫婦、そして母と三人の孫たちだ。毎日、家の前に広がるハウスで一緒に働く。「一つの会社で二人の社長がいるわけですから、上手いかわい時もあります」と哲也さん。しかし、一郎さんは言う。「二年後は私も六十五歳になります。その時は息子にバトンを渡そうと心に決めているんです」。

親子でいちご作りに取り組んでから栽培面積は随分と広がった。今年は本格的に「長崎ゆめのか」の栽培も始め、新たな夢も咲きつつある。これからも美味しいいちごを届けたい――哲也さんの言葉は天国の祖父へも届いているに違いない。

ながさき西海農業協同組合
北松宮農経済センター
佐世保市吉井町大渡203-2
TEL.0956-64-2291



田 平天主堂は、平戸瀬戸を望む小高い丘に建っている。長崎には多くの教会が存在するが、これほどまでに周囲の風景に溶け込んだ教会堂はないのではないか。そう思わせるほどに田平天主堂は優美な姿で佇んでいた。

田平の地に信徒たちが根を下ろすきっかけとなったのは一八八六（明治十九）年。出津や黒島から移住してきたのが始まりだった。それ以降、広々とした田平の地は開拓地として有望だという噂が各地に広まり、多くの信徒たちが移住するようになった。

信徒が増えるにつれ、願いは切実なものとなる。自分たちの教会堂がほしい――。しかし、日々の生活がやっとの彼らにとって建設費用はあまりに莫大であった。この時期建てられた多くの教会堂がそうであるように、ここでもまた信徒たちと歴代の神父たちの血のじむような努力によって、一九一八（大正七）年、田平天主堂は完成した。

工事を請け負ったのは教会堂建築の第一人者、鉄川与助である。煉瓦の積み方や色づかいによってなされた壁面のデザインや八角形ドームの鐘塔、丸みを帯びたリブ・ヴォールト天井など、与助の技術とセンスが余すところなく発揮されている。西の果てに建てられたあまりにも立派な教会堂に信徒

たちは歓喜したに違いない。

天主堂の中に一歩足を踏み入れると、ステンドグラスの美しさに目を奪われる。キリストの生涯と七つの秘跡が描かれたイタリア製のステンドグラスは、献堂八十年を迎え、新調されたもの。堂内には新しい命を吹き込むかのように、色鮮やかな光が射し込んでいた。

田平天主堂は、長崎県内の煉瓦造り教会堂としては最晩期の建築である。関東大震災の際、ほとんどの煉瓦造りの建物が倒壊したこともあり、昭和に入ると煉瓦造りの教会堂は建てられることがなくなった。田平天主堂は煉瓦造りの最後を華やかに飾った祈りの場である。



田平天主堂 平戸市田平町小手田九十九

受け継がれる遺産 Vol.5

世界遺産登録をめざす

長崎の教会群とキリスト教関連遺産

新天地に建てられた教会堂

田平天主堂

読者アンケート

本誌に対する皆さまの率直なご意見やご感想をお寄せください。抽選で、魅力的な県産品をプレゼントします。

締切/7月31日(木) ※消印有効

■応募方法

アンケートの回答、希望のプレゼント名、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を必ず記入し、ハガキまたは簡易電子申請システムで応募。

■ハガキ

〒850-8570 長崎県広瀬「ながさきにこり」係

■簡易電子申請システム

パソコンWEBで 長崎 簡易電子申請 検索

■アンケート

Q1 本誌をどこで手に入れましたか。
(例)定購雑誌、書店、観光窓口、空港、WEBなど

Q2 本誌の魅力が伝わりましたか。

- ☐ よく伝わった
☐ まあまあ伝わった
☐ どちらともいえない
☐ あまり伝わらなかった
☐ 伝わらなかった

Q3 その理由やご意見などを教えてください。

Q4 「受け継がれる遺産」のご感想をご記入ください。

Q5 その他、本号に対するご意見・ご感想があればご記入ください。

Q6 冊子版の定期購読(無料)を希望しますか。

- ☐ 希望します
☐ 希望しない
☐ 定期購読中

プレゼント商品

A 潜龍酒造「神の光」

3名様 (応募は20歳以上の方に限ります。)

P1で紹介した江迎本陣跡を長きにわたり守り続けている潜龍酒造の清酒です。すっきりとした味わいで、食事の時などさまざまなお料理に合います。「神の光」という名前から、神前にお供えるのにも最適。



B よもぎ会の加工品セット

5名様

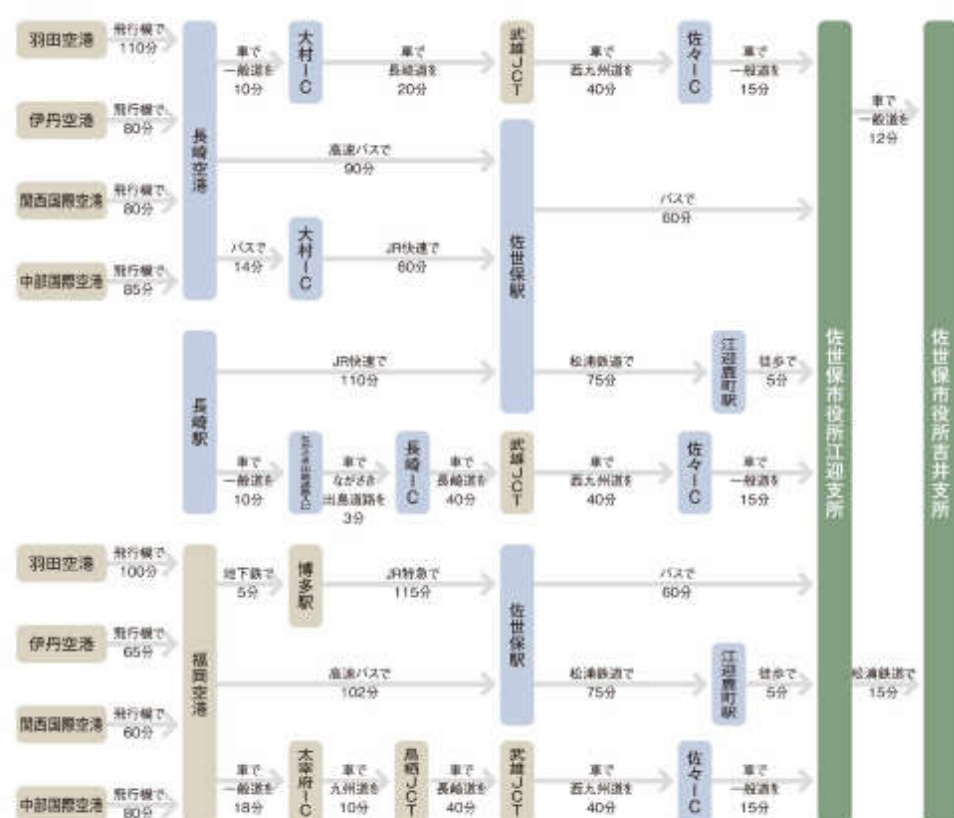
P5,6で紹介したよもぎ会のみなさんが作った黒大豆入り味噌「かあちゃんみそ」、「黒ボン」「むらこし」をセットで。



当選/8月中旬抽選・商品発送予定。
当選は、商品の発送をもって代えさせていただきます。



江迎町・吉井町へのアクセス



TOPICS

にこりトピックス
Nagasaki Discovery Magazine no.10

いよいよ開催! 国内最大級のスポーツイベント

東日本大震災復興支援

長崎がんばらんば国体 2014

第69回国民体育大会 平成26年10月12日(日)~10月22日(水)

長崎がんばらんば大会 2014

第14回全国障害者スポーツ大会 平成26年11月1日(土)~11月3日(月・祝)

君の夢 はばたけ今 ながさきから

長崎で
待ってるよ!



大会マスコット
がんばくん らんばちゃん

毎年秋には、国体と全国障害者スポーツ大会が開催されますが、両大会の今年のステージは長崎県。国体の本県開催は実に45年ぶり、全国障害者スポーツ大会は本県初開催となります。

大会の愛称「がんばらんば」は「がんばろう」という意味の長崎の方言で、全国から集まる選手や観客、そしてスタッフもお互いがんばろうという思いが込められています。

いよいよ間近に迫った両大会。県民総参加のもと、皆さんの記憶に残る魅力あふれる大会となるよう準備を進めています。



1969(昭和44)年に諫早市の県立総合運動公園陸上競技場で行われた開会式。仮設でつくられたスタンドまで多くの観客で埋め尽くされました。



昨年3月にリニューアルした県立総合運動公園陸上競技場。2万人を収容できる両大会のメイン会場となります。

◆ 両大会の会場やスケジュールなど、詳しくはホームページをチェック! 2014 長崎国体 検索

◆ お問い合わせ/長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会実行委員会事務局 TEL.095-895-2791

長崎県の最新情報はホームページをご覧ください。

<http://www.pref.nagasaki.jp/>